

# 第1章 関連する計画および他部局の施策の概要

## (1) 上位関連計画の概要

### ① 小松市都市デザイン

- ・ 市政の最上位に位置する計画として、「小松市都市デザイン」が平成27年に策定されている。
- ・ この計画では、市の人口目標を平成37年において10.5万人以上としている。
- ・ 都市政策に係る取組の方向としては、小松空港の充実や北陸新幹線の開業などの基幹的な交通結節点に関する取組や、高齢者・子育て世帯を対象とした支援の取組などが位置付けられている。

#### ■ 小松市都市デザインの概要

項目	内容
名称	小松市都市デザイン 「新たなライフスタイルへの変革」と「まちのブランド力向上」を
期間	H27～37
人口目標	10.5万人以上(H37)
都市デザイン	北陸の隣立ったまち「国際都市こまつ」
都市デザインの視点	1 変革と成長しつづけるひととまち 2 進化する科学技術が躍動するひととまち 3 新たなライフスタイルを楽しむひととまち 4 チャレンジしつづけるひととまち
都市政策に係る主な取組の方向	○小松空港の充実や道路網の整備、北陸新幹線の小松開業により、国内外とのアクセスの向上、空港や駅等の周辺の魅力向上 ○産業集積や地域資源等を活かし、広域連携とグローバル化 ○情報通信等の技術を活用し、まちの利便性と快適性の向上、環境との共生 ○介護や医療分野等で予防を重視し、シニアが活躍 ○出産・子育て環境などのサポート体制の向上 ○木場潟や河川等の水郷を活かした親水空間、花・緑・水が美しい景観の形成 ○大学教育の充実により、地元産業と医療福祉の人材育成、地域の活力向上

資料：小松市都市デザイン(平成27年10月、小松市)

## ② NEXT10年ビジョン 2nd ステージアクションプラン

- ・平成 37 年を見据えたまちづくりの指針である「小松市都市デザイン」を受けたビジョンとして、「NEXT10年ビジョン 2nd ステージアクションプラン」が策定されている（H28.1月）。
- ・ここでは、都市デザインで示された取り組みの方向がより細分化され掲げられている。
- ・重点的な政策の中で、立地適正化計画に深く係る事項として、以下の位置付けがある。

### ○小松空港と高速道路・鉄道の接続の強化

- ・新幹線から空港への乗り換え場所として小松駅のハブ機能の強化

### ○新幹線小松駅周辺の都市機能の強化

- ・小松市内外との産業、教育、歴史の面における交流機会の創出

### ○小松市民病院の医療拠点の強化

### ■ NEXT10年ビジョン 2nd ステージアクションプランの概要

項目	内容
名称	NEXT10年ビジョン 2ndステージアクションプラン
期間	H27～H31
都市政策に係る主な取組の方向	1. はつらつとしたひとづくりで、まちの活力と未来を創生 ○ 真のCOC(地(知)の拠点)を実現する新しい高等教育へ ・ 公立の4年制大学を開学(小松短期大学・こまつ看護学校を再編)
	2. たくましい財政、市民から信頼される市役所を創生 ○ 将来負担を徹底して軽減 ・ 市債残高を圧縮(市債発行額の抑制、繰上げ償還は随時実施) ・ 公営企業会計(水道事業、下水道事業、市民病院)や特別会計の一層の健全化 ○ 将来を見据えた適正な維持管理・強靱化 ・ 長期的な視点に立った維持管理(思い切った見直しなど) ・ 公共施設のあり方を柔軟に発想転換(コンパクト化・複合化など) ・ 公共施設マネジメント計画を時代に応じて見直し
	3. 女性や若者、多様な人びとのしごとを創生 ○ 日本を代表するものづくり産業クラスターのさらなる進化 ・ グローバル企業を中心とした企業集積をさらに促進 ○ バランスのとれたたくましい産業都市づくり ・ 新産業ゾーンを形成 ・ アクセスを活かした国際物流、医療・福祉・健康、企業本社機能など、バランスのとれた企業誘致・育成
	4. こまつでの、家族の幸せなライフステージを創生 ○ 定住・移住・3世代住まいアップ ・ 定住・移住促進で、地元に残る人びと・UJターンを増加 (小松の住みよさを積極発信、インセンティブ制度のさらなる充実など) ・ また、3世代・準3世代住まいを推進 ・ さらに、空き家・空地といった貴重な資産の活用や適正管理も推進 ○ 住みよさを高める機能を充実 ・ 新しいひと・もの・文化が対流するショッピングゾーンの形成 ・ 高度専門医療・救急医療と地域医療とのネットワークの構築・強化

5. アクセスを活かし、新しい産業や文化、くらしを創生

- 北陸屈指の交通ネットワークをさらに向上
  - ・ 小松空港の国際化(国際便・国際貨物便)と機能拡充
  - ・ 北陸新幹線の小松開業促進(2023 年開業へ)
  - ・ 空港・駅における交通アクセス充実(鉄道やバス、レンタカーなど多様で便利で快適な交通機能)
  - ・ ビジネスや観光等の振興に資する広域道路網の整備促進
- 優れたアクセスを活かしたおもしろいまちづくり
  - ・ 空港周辺・駅周辺のおもしろさ(魅力や利便性)と都市機能をレベルアップ(アミューズメント・人材育成・宿泊機能など)
  - ・ さらなる産業振興と拠点性の向上を加速
  - ・ 首都圏に立地する機能(企業本社機能や教育研究機能、政府機関等)の受け入れを促進(まちの強みの活用・発信、インセンティブ制度など)

資料: NEXT10 年ビジョン 2<sup>nd</sup> Stage Action Plan Flag management(平成 28 年1月、小松市)

### ③ こまつ創生総合戦略・人口ビジョン

- ・まち・ひと・しごと創生法に基づく「こまつ創生総合戦略・人口ビジョン」が平成 27 年に策定されている。
- ・人口ビジョンでは市の人口目標を平成 37 年に 10.5 万人以上、平成 52 年に 10.0 万人以上としている。
- ・総合戦略では、都市政策に係るものとして、アクセスを活かした産業都市づくりや、空き家の有効活用などによる居住促進、交通ネットワークのさらなる向上、空港・駅周辺の魅力や利便性の向上などが位置付けられている。

#### ■ こまつ創生総合戦略・人口ビジョンの概要

項目	内容
名称	こまつ創生総合戦略・人口ビジョン
期間	H27～H31
人口目標	10.8 万人(H22)→10.5 万人以上(H37)→10.0 万人以上(H52)
基本目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はつらつとしたひとづくりで、まちの活力と未来を創生</li> <li>2 女性や若者、多様な人びとのしごとを創生</li> <li>3 こまつでの、家族の幸せなライフステージを創生</li> <li>4 アクセスを活かし、新しい産業や文化、くらしを創生</li> </ol>
都市政策に係る主な取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民から信頼される市役所へ変革 <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の経営感覚で仕事を改革(コスト低減、スピードアップ、満足度向上) (業務改善、民間へのシフト、積極的な ICT 導入、公共施設マネジメント)</li> </ul> </li> <li>○バランスのとれたたくましい産業都市づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスを活かした国際物流、医療・福祉・健康、企業本社機能など、バランスのとれた企業誘致・育成</li> </ul> </li> <li>○多様でここちよい居住を促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3世代・準3世代住まい、定住・U/Iターン・移住促進支援と空き家の有効活用</li> </ul> </li> <li>○予防重視で健康寿命を伸長 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民病院を中心とした医療機関との連携による予防医療を充実 (介護、認知症、生活習慣病、がんなど)</li> </ul> </li> <li>○北陸屈指の交通ネットワークをさらに向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小松空港の国際化(国際便・国際貨物便)と機能拡充</li> <li>・北陸新幹線の小松開業促進(2023 年開業へ)</li> <li>・空港・駅における交通アクセス充実(鉄道やバス、レンタカーなど多様で便利で快適な交通機能)</li> <li>・ビジネスや観光等の振興に資する広域道路網の整備促進</li> </ul> </li> <li>○優れたアクセスを活かしたおもしろいまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港周辺・駅周辺のおもしろさ(魅力や利便性)と都市機能をレベルアップ(アミューズメント・人材育成・宿泊機能など)</li> <li>・さらなる産業振興と拠点性の向上を加速</li> <li>・首都圏に立地する機能(企業本社機能や教育研究機能、政府機関等)の受け入れを促進 (まちの強みの活用・発信、インセンティブ制度など)</li> </ul> </li> </ul>

資料:こまつ創生総合戦略(平成 27 年 10 月、小松市)

④ 小松都市計画区域マスタープラン

- ・都市計画法に基づく「小松市都市計画区域マスタープラン」が石川県により策定（平成 27 年改定）されている。
- ・平成 32 年の人口目標として、都市計画区域を 10.3 万人、市街化区域を 6.8 万人としている。
- ・都市づくりの基本理念として、コンパクトな都市づくりとネットワークの形成、中心市街地の再整備による都市全体の活性化などが掲げられている。

■ 小松都市計画区域マスタープランの概要

名称	小松都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
期間	H17→H32
人口	都市計画区域 10.4 万人(H17)→10.3 万人(H32) 市街化区域 0.7 万人(H17)→6.8 万人(H32)
基本理念	<p>①コンパクトな都市づくりとネットワークの形成</p> <p>②中心市街地の再整備による都市全体の活性化</p> <p>③豊かな産業を背景に活力と躍動感にあふれる都市</p> <p>④心あたたまる福祉や生活環境が整った快適で安全な都市</p> <p>⑤水や緑に恵まれた自然環境と歴史文化を活用した個性ある景観の創出</p> <p>⑥参加と協働によるまちづくり</p>
附图	<p>The map illustrates the urban planning zones and infrastructure for Komatsu. It shows the city's layout with various colored zones: red for residential, yellow for commercial, blue for industrial, green for natural, and light green for recreation. Major roads like National Route 360 and 416 are shown, along with the Komatsu Airport and surrounding municipalities like Toyama and Ishikawa. A legend at the bottom right explains the symbols used for different zones and infrastructure.</p>

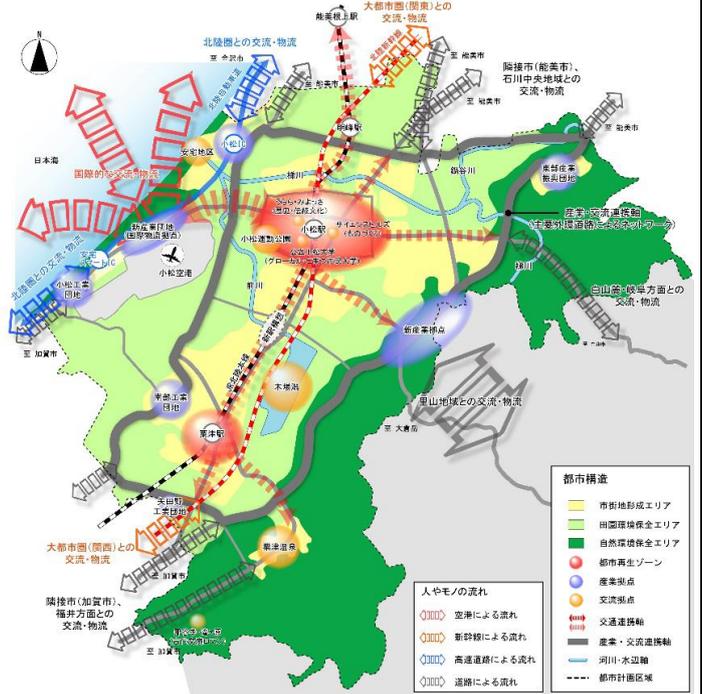
資料：小松都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（平成 27 年改定、石川県）

⑤ 小松市都市計画マスタープラン

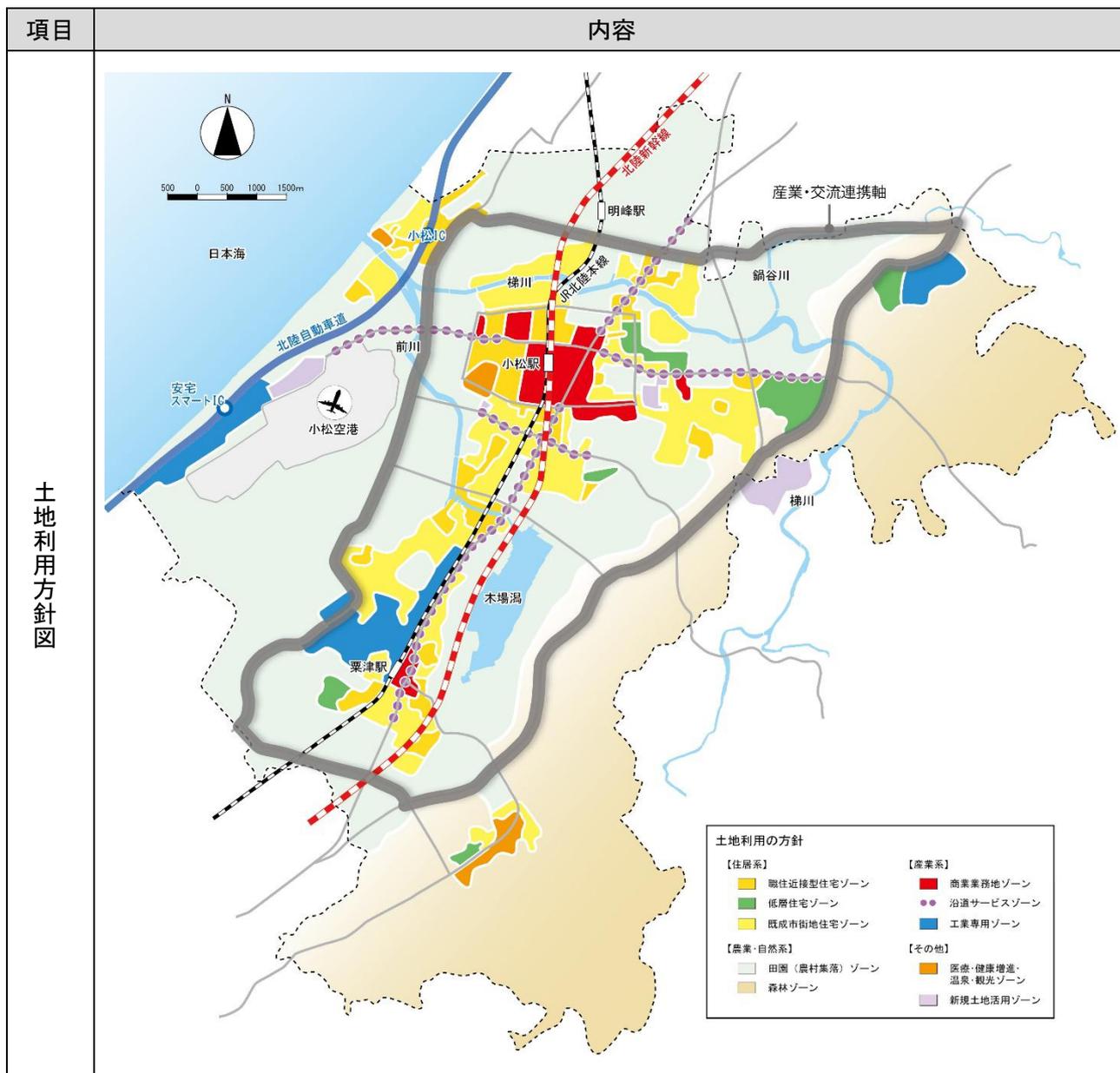
- ・都市計画法に基づく「小松市都市計画マスタープラン」が平成30年に改訂されている。
- ・将来都市構造図では、小松駅および栗津駅の周辺を都市再生ゾーンとし、市域全体の活性化や利便性の向上のため、多様な都市機能の集積を促進などとともに、市街地形成エリア（市街化区域）については、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現の方向性が示されている。

■ 小松市都市計画マスタープランの概要（1/2）

項目	内容
名称	小松市都市計画マスタープラン
期間	H31.3～H37
まちづくりの課題	1. 広域交通機能の充実と活用 2. 暮らしや長寿社会への対応 3. こまつの魅力・活力を高める土地利用や都市基盤の整備 4. 定住と交流の増大 5. 自然環境との共生、地域特性を活かした景観の創出 6. 災害に強い安全な都市空間の形成 7. 多分野へのICT化の促進 8. オールこまつの「共創」の意識
基本理念	～新時代をリードするまちづくり～ みんなが学び活力あふれる国際都市こまつ
基本目標	目標① こまつの魅力づくりと交流推進 目標② 空路、鉄路、道路の優れたアクセス力 目標③ 北陸の成長を牽引する産業都市 目標④ 全ての人々にやさしいスマートな共生のまちづくり 目標⑤ もっと便利に、もっと快適に、そして安全に ～くらしの質の向上を～ 目標⑥ 豊かな自然、まちなみ、歴史文化を活かした都市景観の形成
目標人口	106,479人(H27)→100,000人以上(H47)
将来都市構造図	<p>・将来都市構造では、立地適正化計画に深く係る事項として、以下の位置付けがある。</p> <p>○都市再生ゾーン(小松駅および栗津駅周辺)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な都市機能の集積を促進、「学び」や「ものづくり」などを活かした活力増進、个性的でおもてなしが感じられる空間の形成</li> </ul> <p>○交通連携軸</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域交通機能と連携した市街地への多様な人やモノの流れを促進</li> </ul> <p>○市街地形成エリア(市街化区域)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な市街地形成(コンパクトシティ)</li> </ul>



■ 小松市都市計画マスタープランの概要 (2/2)



資料：小松市都市計画マスタープラン(平成 31 年3月、小松市)

## ⑥ 小松市地域公共交通構想

- ・「小松市地域公共交通構想」が平成 30 年に策定されている。
- ・NEXT10 年ビジョンで示す新たなまちづくりの方向性や関連計画との整合性を図りながら、これからの小松市の交通施策の指針を示している。

### ■ 小松市地域公共交通構想の概要

項目	内容
名称	小松市地域公共交通構想
期間	H30.3～H34
計画体系と今後の取り組み	<p>地域と暮らしを結ぶ便利な公共交通の実現に向けて</p> <p>【テーマⅠ：市街地における公共交通の利便性向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① IC カード決済やバスロケーションシステムの導入</li> <li>② らく賃パスポートの拡充と利用者負担の見直し</li> <li>③ 公共交通への自動運転技術の活用</li> </ol> <p>【テーマⅡ：暮らしを支える快適な移動手段の確保】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 山間部や郊外への路線見直しとふれあいワゴン事業の拡充</li> <li>② 公共交通の利用意識やマナーの向上の啓発</li> <li>③ 公共交通のユニバーサルデザインの普及促進</li> </ol> <p>【テーマⅢ：地域を結ぶ二次交通の機能充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 施設と連携した観光周遊バスやタクシーの活用促進</li> <li>② JR や空港とのアクセス強化</li> <li>③ 広域におけるバス路線の利便性向上</li> </ol>
目標値	<ol style="list-style-type: none"> <li>① コミュニティバス年間利用者数 8万4千人（2016年度） ⇒ 10万人（2022年度）</li> <li>② ふれあいワゴン事業実施地区数 2地区（2017年度） ⇒ 15台（2022年度）</li> <li>③ ユニバーサルデザイン型タクシー導入台数 9台（2017年度） ⇒ 15台（2022年度）</li> <li>④ 観光周遊パスポート年間発行枚数 411枚（2016年度） ⇒ 1,000枚（2022年度）</li> <li>⑤ 空港線（EVバス含む）年間利用者数 11万5千人（2016年度） ⇒ 15万人（2022年度）</li> </ol>

資料：小松市地域公共交通構想（平成 30 年 3 月、小松市）

⑦ 小松市公共施設マネジメント計画

- ・「小松市公共施設マネジメント計画」が平成 26 年に策定されている。
- ・今後の公共施設について、機能転換・統合・廃止の推進や民間ノウハウの活用などが方針として示されている。
- ・施設の具体的な計画については、このマネジメント計画に基づいて進められる。

■ 小松市公共施設マネジメント計画の概要

項目	内容	
名称	小松市公共施設マネジメント計画	
期間	H26～H35	
基本方針	① 少子高齢化による、人口減少・人口構成の変化に対応するため、「施設の機能転換、統合、廃止」を進めます。 ② 市民が安全・安心に施設を利用できるよう、「施設の適切な保全」を進めます。 ③ 市民のニーズや満足度に対応した公共サービスを提供するため、「施設の質的向上」を図ります。 ④ 効果的・効率的なサービスを提供するため、「民間ノウハウの活用と市民協働」を進めます。	
マネジメントの進め方	(公共建築物) ○施設保有量の最適化とライフサイクルコストの縮減 ○計画保全等による長寿命化の実施 ○施設の質的向上 ○市民・民間事業者との協働	(公共インフラ) ○計画的な維持管理への展開 ○長寿命化計画の策定と計画的な推進 ○防災機能の強化と市民ニーズへの対応 ○市民・民間事業者との協働
推進体制		

資料: 小松市公共施設マネジメント計画(平成 26 年 12 月、小松市)

## (2) 関連プロジェクトの概要

### ① 都市再生整備計画（小松中央地区）Ⅲ期【事業中】

- ・「都市再生整備計画（第7回変更）小松中央地区Ⅲ期」に基づき、平成27～31年の期間で小松駅周辺を対象とした各種事業が実施されている。
- ・主な事業としては、小松駅南ブロック複合施設などを含めた駅周辺の施設整備が進められている。

#### ■ 都市再生整備計画（小松中央地区）の概要

項目	内容
名称	都市再生整備計画(第7回変更) 小松中央地区Ⅲ期 (都市再構築戦略事業(人口密度維持タイプ))
計画期間	H27～H31(5年間)
目標	<p>【大目標】 ”都心にふさわしい魅力と快適性に恵まれた歴史・文化の香り高い躍動感あふれるまちづくり”（こまつ鼻頂(びいき)が集うまち)</p> <p>目標1:『交流機会の拡大』・・・小松城の城下町としての歴史的な地域資源と新たな文化施設により、歴史・文化回廊を創出し、観光客数の増加を図る。</p> <p>目標2:『都市機能の充実』・・・人々が集い賑わう魅力的な都市機能を集積し、地域コミュニティの活性化を図る。</p> <p>目標3:『まちなか居住の促進』・・・魅力ある地域づくりを継続することで、まちなかの賑わい再生を図る。</p>
代表的な指標	<p>駅周辺施設の利用者数:473,700人(H25) → 535,300人(H31)</p> <p>小松駅利用者数:590,000人(H25) → 648,750人(H31)</p> <p>中央地区の人口:18,201人(H25) → 17,578人(H31)</p> <p>空き家・空き店舗減少:29件(H27) → 26件(H31)</p>
整備方針概要	<p> <b>■ 基幹事業 (道路)</b> 市道龍助町九電橋線  <b>○ 関連事業 (県)</b> 小松・鶴来線  <b>■ 基幹事業 (道路)</b> 小松駅西広場整備  <b>■ 基幹事業 (高層空間形成施設)</b> 小松駅前シェルター整備  <b>○ 都市機能立地支援事業</b> 小松駅南ブロック活用  <b>■ 基幹事業 (地域生活基盤施設)</b> 小松駅南駐車場整備  <b>■ 基幹事業 (高次都市施設)</b> 観光交流センター (北陸新幹線小松駅高架下整備)  <b>■ 基幹事業 (高層空間形成施設)</b> 小松駅周辺照明LED整備  <b>■ 基幹事業 (地域生活基盤施設)</b> 町家ハウスRyusuke周辺広場整備  <b>○ 関連事業 (都)</b> 根上小松線         </p> <p>凡 例  <span style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 基幹事業  <span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 関連事業  <span style="border: 2px solid red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 都市再生整備計画区域         </p>

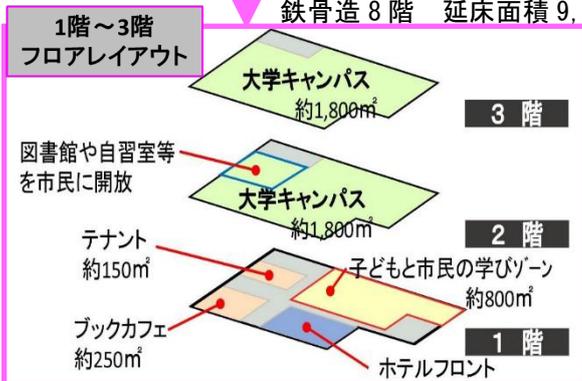
資料：都市再生整備計画小松中央地区（平成29年1月、小松市）



③ 都市再構築戦略事業（小松中央地区）

- ・小松駅南ブロックにおける複合拠点施設の整備を中心に事業が行われた。

■ 都市機能立地支援事業（小松中央地区）の概要

項目	内容	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松駅南ブロックにおいて、商業・公共施設を有した集客の核となる複合拠点施設を整備 →市のシンボル、まちなかの賑わい、市民全体の満足度向上</li> <li>・子育てや人材育成、教育に関連する官民施設を集積 →定住人口・交流人口の拡大、賑わい再生・活力増進、中心市街地の拠点性の向上</li> </ul>	
中心拠点施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもと市民の学びゾーン（商業施設）</li> <li>○ブックカフェ（商業施設）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学（教育文化施設）</li> </ul>
整備方針概要	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <p>複合施設外観イメージ</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px;"> <p><b>ホテル グランビナリオ KOMATSU</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外のVIPへ対応するワンランク上のビジネスユースプライベートホテル</li> <li>・客室数：4～8階の5フロア 99室</li> </ul> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid pink; padding: 5px;"> <p>1階～3階 フロアレイアウト</p>  <p>鉄骨造 8階 延床面積 9,422㎡</p> </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 5px;"> <p>大学 キャンパス</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 5px;"> <p>ブックカフェ</p>  </div> <div style="border: 1px solid yellow; border-radius: 50%; padding: 5px;"> <p>子どもと市民の 学びゾーン</p>  </div> </div> </div>	

④ 公立小松大学設立事業

- ・平成 30 年 4 月に、公立小松大学が開学した。
- ・キャンパスは、現小松短期大学および現こまつ看護学校の改修・整備を行うとともに、小松駅前南ブロックに整備中の複合施設に設置されている。

■ 小松大学設立事業の概要

項目	内容
概要	<p>【各キャンパスの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小松駅前キャンパス(国際文化交流学部) ・小松駅前南ブロックで整備中の複合施設に設置</li> <li>・粟津キャンパス(生産システム科学部) ・現小松短期大学を改修・整備</li> <li>・向本折キャンパス(保健医療学部) ・現こまつ看護学校を改修・整備</li> </ul>
整備方針概要	<p><b>H30年4月開学</b> 【入学定員】300名</p> <p>※平成 28 年 10 月に大学設置認可申請書の提出を目指す。</p> <p><b>企業キャンパスプログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の進路選択と企業の求める人材像の融合</li> <li>・生産現場で学ぶものづくり</li> </ul> <p><b>生産システム科学部</b> 機械工学、ロボット・メカトロニクス 先端的工学知識、総合的な科学の知見</p> <p>日本を代表するものづくり企業集積地 <b>粟津キャンパス</b> 現小松短期大学</p> <p>現場での実践力</p> <p><b>公立小松大学</b> 幅広い教養 豊かな人間性</p> <p>確かな基礎知識と応用力</p> <p><b>国際文化交流学部</b> 国際観光文化学、国際コミュニケーション学 日本文化の素養、実践的語学力</p> <p>異文化への理解と受容</p> <p><b>保健医療学部</b> 看護学、臨床工学 高い看護実践力を培う、地域医療ニーズへの即応力</p> <p>地域の中核的医療福祉ゾーン <b>向本折キャンパス</b> 現こまつ看護学校</p> <p><b>再編・発展</b> 地域で培われてきた教育資源を最大限に活用</p> <p><b>小松短期大学</b> (S63年開学) 【平成 26 年度】卒業生 91 名、修了生 21 名</p> <p><b>こまつ看護学校</b> (H7年開学) 【平成 26 年度】卒業生 34 名</p> <p><b>海外留学 海外インターンシップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通至便な立地を活用</li> <li>・地域企業や海外協定校と連携</li> </ul> <p><b>就職率</b> 平成 26 年度卒業生 100%</p> <p><b>看護師</b> 国家試験合格率 3年連続 100%</p> <p><b>県内医療機関への就職率</b> 90% 以上</p> <p><b>アドバンスト・テクニカル・カレッジ・コマツ</b> 専門職業人養成大学を併設※ ・他に類を見ない産学連携によるものづくり企業社員研修プログラム ・高い技術と意識を持ち合わせたコマツの中堅リーダーを育成 ・新たな学位、能力証明の検討</p> <p>※現在、文部科学省で制度化を検討中。</p> <p>北陸屈指の交通ネットワーク中枢 <b>小松駅前キャンパス</b> ※複合施設に新キャンパスを設置</p> <p>JR 小松駅、小松空港、北陸新幹線 (2023 年小松開業)、に近く、誰もが利用しやすい好立地で国際文化交流学、教養教育、社会人教育を開講。</p> <p>地域を持続的発展を支えるリーダーシップ</p>

資料:小松市資料